

研究No. (記載不要)	— —
-----------------	-----

平成 25 年度配分 研究成果発表報告書(実績)

研究名	SUACにおけるBCP策定の為の基礎的研究				
配分を受けた 特別研究費	学長 特別研究費		特別研究費		550 千円
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究者
	デザイン学部	空間造形 学科	講師	中野 民雄	他 2 名
発表の方法	1 紀 要 名 称:			号 数	第 号 (頁～ 頁) (年 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名: 空気調和・衛生工学会大会(秋田) 日本建築学会学術講演会(神戸)			発表日	平成 26 年 9 月 4 日 平成 26 年 9 月 14 日
	3 その他 発表の方法: 静岡文化芸術大学研究成果発表会(学内) ふじのくに防災学講座(静岡市) 多治見市防災リーダー養成講座(多治見市)			発表日	平成 26 年 12 月 4 日 平成 26 年 12 月 6 日 平成 27 年 2 月 7 日

※ 学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。

※ 配分を受けた翌年度の 3 月末までに提出

(研究の目的等)

日本の大学におけるBCPの導入は遅れており、本学においても今後100年以内に発生が予測される東南海大地震に備えて、防災体制や防災備蓄等は整備しているが、建物インフラ機能及び非常時における稼働設備等に対してのBCP対策は、ほとんど成されていないのが実情である。

本研究は静岡県立の大学としての道義的責任と社会的使命を果たす為、災害時のSUACにおけるBCPの指針を示す事を目的としている。

(研究の実施方法等)

2013年12月25日

学内ミーティング, スケジュール調整・確認

2014年2月13日, 14日～3月7日

2月13日, 14日: 設計図の確認, 地下機械室の現地調査

2月15日～3月7日: 地下機械室の災害対策検討

2014年2月27日～3月1日

東日本大震災後(約3年)の復興状況の現地視察およびヒアリング

(仙台空港～松島～石巻～気仙沼～陸前高田)

2014年3月10日～3月11日

阪神・淡路大震災後(約20年)の復興状況の現地視察およびヒアリング

(ポートアイランド～神戸学院大学～兵庫県庁防災計画課)

(得られた成果等)

①災害因分析評価

災害因の分類から、東海地域において想定される危機的な発生事象(インシデント)を抽出し、大学業務影響度分析と優先順位の検討を行った結果、SUACでは地震並びに津波や河川氾濫による建屋への浸水被害への対策が最重要項目である。

②SUAC建屋現況調査

建物の構造的強度は確保されているものの、建築設備的側面からは課題が非常に多い。中でも機械室は地下配置の為、大規模浸水被害が起こった場合は建物機能が全停止する恐れがあり対策が急務である。

③災害発生時の状況予測

災害時における学内の滞在人員は、学生が大半を占める事が予測され、学生に対する災害時における状況周知と対応が非常に重要である。また、交通機関・インフラが復旧するまでの緊急時(初動対応)には帰宅困難者への対応が必要不可欠であり、復旧時(業務継続対応)のボランティア要員を確保する事も重要である。

④災害発生時の給排水設備対応

学内の滞在人数による上水・中水は、共に貯留水のみで対応できる。また、都市の排水インフラ機能が断絶した場合は、貯留水の使用が不可能となる為、マンホールトイレシステムおよび緊急トイレパックシステム等の整備が必要である。